

第2回庄内町立図書館協議会 会議録

開催日時 令和5年2月24日(金) 午後6時30分 開会
午後8時10分 閉会

開催場所 庄内町役場B棟2階 会議室1

出席者 出席委員6名
大山浩司、小野寺姫、三浦志保、奥山洋子、志田啓子、佐藤克則

欠席者 菅原昭治

事務局 社会教育課 課長 樋渡真樹
庄内町立図書館 主査兼図書館長 佐藤晃子
庄内町立図書館 主事 長南千夏

議事日程

1 開会 (社会教育課長)

以下進行 事務局

2 あいさつ

図書館協議会委員長

3 協議事項 (座長：委員長)

(1) 令和4年度庄内町立図書館・内藤秀因水彩画記念館における事業総括について

《資料に基づき説明：事務局》

委員：3点伺います。1点目は、毎年入館者数と貸出冊数の目標について設定はしているか。2点目は、情報発信の点で、町のLINEの他に、図書館独自のLINEはあるか。ないとすれば今後導入を考えているか。そして最後に、妊婦向けの本のリストはあるか。あるとすれば、ブックスタート時の絵本プレゼントでは、リストから選んでいただいているのか。

事務局：1点目の入館者数と貸出冊数の目標値については、町の総合基本計画内で設定しているが、年単位の設定はしていない。

委員：前年と比べた数値の増減にこだわるのではなく、年度単位で目標をたて、年度の中頃でそれらを確認し、目標値に足りていない場合には改善に向けての仕掛けをしていく等の対応策が必要ではないか。たくさんの人に足を運んでもらうにはどうすべきか考えていく必要があると思う。

事務局：また、2点目について、今のところセキュリティの観点から独自の図書館LINEはない。最後に3点目については、保健福祉課や子育て応援課と連携をとりながら随時対応しており、リストも作成し、配付している。また、ブックスタート時の本のプレゼントについても対象作品から好きな本を1冊選んでもらっている。ブックスタートは、保健福祉課が主導ではあるが、選書の際には当館の司書と一緒にしている。

委員：今年度の「うちどくガイド」に余目第三小の親子読書の取り組みを載せてもらったが、毎年

紹介する予定か。

事務局：「うちどくガイド」での事例紹介は今年度からスタートした。次年度は、また別の学校の事例を紹介していく予定である。また、年に2回各学校の先生が参加する子ども読書推進委員会では、年間評価の中で小学校の先生方から、読み聞かせボランティアが増えたという報告を受けた。余目第三小をはじめ、地域の方々の子どもたちのために力を発揮してくださる流れが広がっていきいていることを喜んで受け止めている。

(2) 令和5年度庄内町立図書館運営計画（案）について

(3) 令和5年度庄内町立図書館協議会年間計画（案）について

(4) 令和5年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画（案）について

《資料に基づき説明：事務局》

委員：重点目標の情報発信について、HPや図書館だよりもあるが、HPについては利用者がクリックしなければ情報は得られない。図書館だよりについても、手に取らなければ情報は得られない。やはり、SNSでの情報発信としては、InstagramやLINE等、利用者がアクションを起こすのではなく、こちらから発信をしていく必要がある。新しい図書館になり、それらを活用しない手はないと思うし、若い人たち届けるためにも非常に重要だと思う。また、図書館だよりについても庄内町のLINEで発信されているが、とても小さく読みにくい。また、地域の活性化への支援の手立てとしては、まちなか図書館や移動図書館等が取り上げられているが、新しい図書館ができるのであれば、そこに来てもらうということが大事ではないか。町内バスと連携をする等して、図書館に高齢者を巻き込むことも大事だと思う。運営方針にもあるとおり、図書館が本を読むだけの場でなく、スペースを使って勉強会や体験活動等を行えるような地域の憩いの場になれば良いと感じる。

委員：地域の人を巻き込むような具体的な計画は何かあるか。

事務局：今年度、新図書館オープンに向けたボランティアを募集した。結果的に作業時期がずれてしまったため、現在は待機状態となっている。今後は改めて、追加募集を考えている。ゆくゆくはその方たちを継続的に図書館ボランティアとして運営面に力を発揮していただけないかと考えている。

委員：図書館ボランティアに関しては、庄内総合高校に頼むことはしないのか。

事務局：学生を巻き込むことも考えている。

委員：子どもたちにも新しい図書館に来てもらうようし、そこでも新しい機能等について情報発信してほしい。

課長：今まで図書館に足を運んでこなかった人が足を運ぶような企画が必要になってくる。

委員：若い人たちを巻き込むにはどうしたらよいかと思っている。この協議会にも高校生が足を運び、意見を言えるような場ができたらいいと思う。

委員：余目中学校の生徒も巻き込めるのであれば巻き込んで欲しい。

委員：学校帰りの立ち寄りが認められていない等の規則もあり、今のままでは難しい。

課長：中学生が帰宅途中でも図書館に寄れるような手立てが必要と考える。

事務局：全国的にも図書館の中高生の利用が年々課題になっている。ミライニではそこに力を入れており、最初の構想段階から、高校生を巻き込む体制がとられており、すぐ近くの図書館に先

進事例があるので学ぶことが多い。今後、中高生には、子ども自身が企画段階から参加し、本の楽しさを伝える側になっていただきたいと思っている。図書館はそのためのきっかけを作りたい。新図書館には、環境整備の面でもボランティア室も設置されることから、それらを活用し、中高生の活動の場づくりを実現していきたい。また、今の若い世代、デジタルネイティブな子たちは、能動的に情報を探るといより、黙っていても大量の情報が降り注いでくる中で育ってきた。そこから興味のあるものを見つけていくということなので、探してくれるのを待つというスタンスでは通用しないと思っている。現状を改善するにはどうしたら良いかを考えていきたい。

委員長：休館期間も長いので、その間の発信もしっかりしていかなければならないと思う。

委員：発信するにしても、真面目なものよりも面白い内容の方が目に行く。

課長：図書館分館は指定管理に移行してから、どんどん発信をしている。

事務局：来ていただくには、利用を促したい特定の層に訴えかけるような戦略も大事だと思うので考えていきたい。

委員長：雑誌スポンサー制度とはどういったものか。

事務局：企業側から図書館に対し、1年を通してひとつのタイトルの現物を納めていただく制度である。その雑誌のビニールカバーなどに企業名をつける等して、企業名や情報の発信もできるようになる。

委員：企業側は喜ぶと思う。社会貢献活動をしたいと思っている企業は多くいると思う。また、子育て支援との連携について、ぜひ子ども食堂やボランティア団体等との連携も考えていただきたい。子ども食堂では、食の提供だけではなく、体験活動とタイアップし、居場所づくりを目的に活動している。これらもはじめは予算のない中で始めたが、現在は多くの企業から支援をいただいている。

(5) 令和5年度庄内町教育委員会の重点と視座（案）について

《資料に基づき説明：事務局》

委員：歴史民俗資料館については、休館して2年経つが、改めて名前が載っていることが嬉しい。

課長：消防法上、職員以外の人を入館させることが難しくなっているため、休館している。これからどうしていくか議論しているところである。

委員長：歴史民俗資料館での機能を図書館で担える部分もあるか。

事務局：古文書などの資料に関しては、当館でもデータベース管理をした上で、公開をしている。しかし、民俗資料の管理となると、どちらかと言えば亀の尾の里資料館の取り組みに近い。ただ、新図書館には郷土資料コーナーが設置されることから、その展示ケース等を活用し、文献と一緒に民俗資料についても展示するといった取り組みも考えられる。そのような方法で、地域の皆様に町内の貴重な資料を発信することも考えていきたい。

4 その他

・庄内町立図書館整備事業について

・庄内町立図書館（本館）及び分館の開館時間及び休館日について

《資料に基づき説明：事務局》

5 閉会